

## 青少年健全育成は日常生活の充実から

2017.02.08

これまでは青少年がどのように育っているかを述べ、あるべき姿を検討したい。まずいわれているのは、個性と独創性が無い。これをうけて、創造性教育や個性を伸ばし。そのための学習が必要、などといわれている。

これを聞いて、常に思うのは、社会が個性や創造性を受け入れているのであろうか。社会が若者の芽を摘み取り、個性や創造性が云々と言っているだけに過ぎない。その証拠に、社会で個性を発揮するとたちどころに和を乱すというし、創造性を発揮するとたちどころに現実味が無いとか市民ニーズにそぐわないとして却下されたりしている。

要は、社会の都合のいいような個性と創造性はウエルカムなだけである。こうした社会環境が日常生活はおろか教育にも影を落とし、のびのびした生活が送れないばかりか管理教育の徹底を招き、若者が心身ともにひ弱になって、若者批判だけが大手を振っているのである。こうした状況で、青少年の育成をいうならば、まずは社会の若者への見方を変えること、次に健全な教育の実践ということになる。

では、具体的にはどう考えるのか、教育と日常生活の二面で論ずることにした。

私は、まずは個性の確立がすべてに先行すると考えている。というのも、創造性や感性など個人の素養があつてのものであり、これが社会性とリンクして始めて自と他、個人と社会、といった枠組みで個が確立した総体と捉えるのである。そうした個性像を描けば、必然的に備わる要件も決まってくる。すなわち、観察力、コミュニケーション力、思考力として批判精神や分析及び総合の力、といったものが兼ね備わるべきと考える。

また、日常生活のカテゴリーの扱いについては、人が具備する各種の能力は生活を通して沈着するものと考えている。各種能力は机上勉強ではなく、実践を必要とし、しかもそれは社会の中で育っていくものであるだけに、地域貢献や社会貢献へと姿を変え発展することにもなる。

結びとして、健全育成は健全な日常生活の営みにありといたい。そこには、人がおり、自然があり、社会がある。そんな環境が人の生育を心身ともに促し、また人はそのための環境を充実させていくのである。こうした観点そのものが健全教育の健全姿勢そのものである。まずここから着手すべきかと思う。